

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	59	学校名	茨城県立取手第二高等学校					課程	全日制			学校長名	廣瀬 久美子					
教頭名	鈴木 恒一										事務(室)長名	黒田 和男						
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	9	実習教諭、実習講師、実習助手			1	事務職員	3	技術職員等	6	計	55
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		35	85	53	66	35	79			123	230	9					
家政科		1	39	0	40	1	36			2	115	3						

2 目指す学校像

- 1 生徒一人一人が個性を發揮し、主体的に活動する学校
- 2 社会で生きていくために必要な資質・能力を身に付けることができる学校
- 3 自己のキャリアについてしっかり考え、目標に向けて果敢にチャレンジできる学校
- 4 家庭・地域社会との相互理解を図り、家庭・地域の信託に応える開かれた学校
- 5 教職員相互が指導力の向上及び環境の整備を図り、一致協力して組織的かつ計画的に教育活動を展開できる学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	・基礎的な学力は定着しつつあるが、主体的に学ぶ姿勢が弱く、学習時間や学習意欲ともに不足している生徒がいる。	・ICTの活用などにより、生徒主体の授業形態の工夫を通して、学習意欲の向上ならびに家庭で学習する習慣の定着を図る。
進路指導	・進学希望者は毎年 80%程度おり、大学短大への進学希望者は 30%を超えて増加傾向にある。 ・具体的な進路希望先の決定が遅い生徒も見受けられる。	・3年間を見通した進路指導計画を立てて、生徒の自己理解を促し、適切な進路選択とその実現を支援する。

別紙様式1 (高)

生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣が身に付いている生徒がほとんどであり、問題行動による指導件数も少ないが、常に規範意識の向上が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒個々に対する実態の把握と理解に努め、家庭との連携を強化して問題行動等の未然防止と解消に努める。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事には積極的に参加する生徒が多いが、自主的な活動や取組に関してはやや消極的である。 参考：部活動の加入率は約40%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事や生徒会活動等への積極的な参加を促し、生徒が主体的に活動するための支援を行う。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「きんむくん」による勤務時間の管理を行っているが、実際には時間外勤務が恒常的に発生しており、通常の校務や週休日の部活動指導等に負担を感じている教員は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークライフバランスを含めた働き方への意識改革及び周囲の理解を図る。 ・ 教職員個々の時間管理や健康管理のため、業務の効率化などにより勤務時間の適正化を図る。

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎学力の定着を図り、自ら学び、課題を見つけ、行動できる態度の育成に努める。 2 規範意識の醸成ならびに自律的な生活習慣の確立を図る。 3 望ましい勤労観・職業観の育成に努め、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。 4 心身共に健康で、豊かな心を育成するとともに、社会に貢献できる人間力を培う。 5 教職員の働き方改革を推進し、職務の効率化と質の向上への意識高揚を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習意欲を向上させるための授業実践	<ol style="list-style-type: none"> ① ICTを取り入れ、生徒が主体的に学べる授業形態の工夫や充実を図る。 ② 生徒の実態を踏まえた課題や内容の精選、効果的な指導方法を検討し実践する。 ③ 少人数授業、課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高め、入試や資格試験に対応できる学力の向上を目指す。 ④ 授業規律の確立を図り、チャイムと同時に授業が始まり、終わるよう徹底する。

別紙様式1 (高)

<p>社会で通用するマナーやルールを身に付けさせる生徒指導</p>	<p>⑤時間を守り (時)、礼を尽くし (礼)、身だしなみや周囲の環境を美しく保つ (美) の徹底を図る。 ⑥段階的指導を有効に活用し規範意識を高めるとともに、公共の場におけるマナーを身に付けさせる。</p>
<p>キャリア教育の推進</p>	<p>⑦各種進路行事や課外の在り方を検討し、個に応じた進路指導の推進を図る。 ⑧デュアルシステムやインターンシップなどの実践により、職業意識の高揚を図る。 ⑨様々の教育活動や行事等と関連付けながら、個々のキャリアプランニング能力を高め、3年生の時点で進路希望未決定者を0%にする。</p>
<p>豊かな心の育成</p>	<p>⑩「道徳」や学校行事を通して、他者や社会、自分と異なる世界との関わりを学び、人間関係構築力やコミュニケーション力を養う。 ⑪集団の一員として他人の立場を尊重し、思いやりの心で人と接することができるようにする。</p>
<p>特別活動の活性化</p>	<p>⑫HRや学校行事等においてキャリアパスポートを活用し、自らの高校生活のあり方や振り返りを通して、自己理解の深化と将来について主体的に学び考える力を育む。</p>
<p>部活動の活性化</p>	<p>⑬活発な部活動を積極的に評価することで自尊感情・活動意欲を高め、部活動の加入率の上昇と活性化を図る。</p>
<p>働き方改革の推進</p>	<p>⑭現行の業務内容について点検・見直しを行い、スクラップアンドビルドによる業務改善に取り組み、勤務時間の適正化に努める。 ⑮ICTの活用による情報の共有化や会議の効率化を図る。 ⑯「部活動等の活動方針」により、実施環境を整備・構築する。</p>